OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	[形容詞語幹＋形容詞] 型複合形容詞の造語パターンについて ： 生産性と用法基盤モデルの観点から
Author(s)	趙, 萱
Citation	日本語・日本文化研究. 2025, 35, p. 141-155
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/103796
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

［形容詞語幹＋形容詞］型複合形容詞の造語パターンについて
－生産性と用法基盤モデルの観点から－

趙　萱

1.　はじめに

現代日本語において、複合形容詞は他の複合語より造語力が低いと指摘されることが一般的である。しかし、以下のような［形容詞語幹＋形容詞］型複合形容詞（以下、AA 型複合形容詞）の新しい用法は近年の言語使用でよく見られる。例（1）において、「面白い」と「かわいい」によって造語される「面白カワイイ」は、光ちゃんが「面白くてかつ可愛い」と評価するために使用されている。そして、例（2）における「痛悲しい」は「痛い」と「悲しい」が結合して作られる複合形容詞であり、主人公の目が単に悲しそうに見えるのみならず、「その悲しみが見ている人にも痛みとして伝わるほど、切実に感じられる」ということを強調している。

（1）光ちゃんったら、ホントに面白カワイイんだから！1 つ 1 つの表情やギャグやボケが、サイコーに楽しい！めっちゃ笑ったよん♪。（fc2.com）

（2）真治君の目が、小さい子犬みたいで一瞬ほんとに痛悲しそうに見えるから…

（cocolog-nifty.com）

このように、特に「痛悲しい」のような複合語は、当時の感情や状態を表現するために、既存の語彙を組み合わせて作り出されたものであり、新奇性が極めて高い。こうした次々と現れてきた AA 型複合形容詞を、どのように取り扱うべきかに関しては、先行研究の枠組みでは十分に説明されていないと考えられる。漆谷（2014）などでは AA 型複合形容詞の造語パターンの分類が試みられているものの、辞書から収集したデータを内省によって分析するものが多く、客観性を欠いており、新奇的な例を考察の対象にも含めていない。言い換えれば、これらの研究には現代日本語の使用実態を十分に考慮していないという根本的な問題点が存在すると言える。

そのため、本稿では、ウェブコーパスからデータを収集し、新奇性の高い AA 型複合形容詞を抽出する。このことは、同時に、AA 型複合形容詞の使用実態をより客観的に把握することにもつながる。また、「面白かわいい」や「痛悲しい」といった新しい造語パターンによって形成されたものも含め、造語要素となる前項要素（以下、A_1）を中心とするものと後項要素（以下、A_2）を中心とするものに分け、生産性の度合いに基づき、AA 型複合形容詞の造語パターンをⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳという 4 つのグループに分類する。このように、造語要素の生産性に着目することにより、認知言語学における重要な概念である用法基盤モデル（Usage-Based Model）の枠組みに基づき、現代日本語の使用実態をより適切に捉えることができると考えられる。

2. 先行研究と理論的枠組み

本節では、AA 型複合形容詞に関する先行研究を概観し、それらの問題点について述べる。あわせて、本稿の理論的枠組みについても検討する。

2.1 AA 型複合形容詞に関する先行研究

AA 型複合形容詞に関する先行研究は、管見の限りそれほど多くないが、その大半において分類についての議論が行われている。分類の基準は研究によって異なるものの、これらの先行研究に共通する最も大きな問題点は、分析に用いられたデータに客観性を欠く点である。漆谷（2014）および近藤（2015）における AA 型複合形容詞のデータは、すべて日本語辞書の見出し語に基づいており、意味関係の分析も研究者の内省に依拠している。また、阪口（2018）は「キモかわいい」や「辛楽しい」といった近年の言語使用に見られる新奇性の高い複合形容詞を示している。しかし、挙げられているのは 4 語のみであり、しかもそれらの例は「BCCWJ（日本語書き言葉均衡コーパス）などの特定のコーパスに依拠せず、ネット上のブログ、ニュース記事などから採取した」（阪口 2018: 78）とされている。そのため、分析が研究者の直感に大きく依存している点は否めない。

一方、漆谷（2014）らは近年の言語使用に着目していないため、提案された分類法が「えぐ凄い」や「面白かわいい」といった新しい AA 型複合形容詞にも適用可能かどうかは明らかでない。その中で、例えば、黄・濱田（2023）は客観性を高めるために、『分類語彙表』から 21 語のデータを収集しているが、これらはあくまでも日本語辞書の見出し語であるため、データの網羅性に欠けている。さらに、黄・濱田（2023）は『分類語彙表』における分類番号が付けられた AA 型複合形容詞の分類を試みているものの、「嬉し恥ずかしい」や「キモかわいい」などの新奇的な複合形容詞は『分類語彙表』に登録されていないため、その意味構造や成立条件を判断できず、この分類法を適用することは困難である。

AA 型複合形容詞の生産性について、趙（2025）は、AA 型複合形容詞を A_1 と A_2 に分け、複合語の形態的特徴を考慮に入れたうえで、タイプ頻度とエントロピーを生産性[ii]の測定基準とすることを提案し、統計的手法による分析を行っている。趙（2025）は用法基盤モデルの立場に基づき、タイプ頻度が高いほど生産性も高くなると考える。そして、玉岡（2010）を参考にしてエントロピーの計算を行い、AA 型複合形容詞の各造語要素の A_1 と A_2 のトークン頻度[iii]における偏りを明らかにした。要するに、タイプ頻度およびエントロピーの双方が高い A_1 または A_2 は、生産性の最も高いグループに属すると主張している。分析の結果、生産性が最も高い A_1 は「面白い」「うざい」「怖い」「かわいい」である一方、生産性が最も高い A_2 は「かわいい」のみであるということが明らかになった。しかしながら、趙（2025）は AA 型複合形容詞の生産性の測定基準について提案を行っているものの、その分析は統計的側面にとどまっており、それに基づいた質的研究には検討の余地があると考

えられる。したがって、本稿では、造語要素 A_1 および A_2 の生産性という観点から出発し、AA 型複合形容詞の造語パターンをグループに分けて詳細に分析することを目的とする。

2.2 理論的枠組み

本節では、本稿で取り扱われる概念について定義を行い、本稿の理論的枠組みを概観する。

2.2.1 用法基盤モデル（Usage-Based Model）

認知言語学における重要な考え方の一つである用法基盤モデルとは、Ronald W. Langacker が最初に提出した概念であり、生成文法のように言語を現実の使用から切り離された静的な規則の体系としてではなく、言語を使用の産物として捉える言語モデルである。このモデルでは、実際の場面に基づく言語経験が、人間の記憶や文法経験の形成に大きく影響を与えるとみなされている（Langacker 2000, Bybee 2023，早瀬・堀田 2005，辻 2013）。

2.2.2 生産性（productivity）とタイプ頻度（type frequency）

生産性は形態論研究における極めて重要な概念である。Langacker (2000: 26)は生産性を以下のように定義している。すなわち、用法基盤モデルにおいて、生産性は新しい表現を分類する際にそのパターンの利用可能性を指す。趙（2025）は、生産性を「ある種の表現のタイプ頻度が上がってスキーマとして定着し、そのパターンや構文が新しい表現に適用される可能性」と定義しており、AA 型複合形容詞の生産性の測定基準を再検討した。

“Productivity is a matter of how available a pattern is for the sanction of novel expressions. [...] In a usage-based model with dynamic processing, productivity amounts to likelihood of being selected as the active structure used to categorize a novel expression. ” (Langacker 2000: 26)

また、用法基盤モデルにおいて、タイプ頻度は生産性と結びついており、生産性の向上に貢献する要素と捉えられているのが一般的である（Bybee 2010, 早瀬・堀田 2005）。タイプ頻度とは、アクセントのパターンや接辞といった特定の言語形式において、どれだけ異なった種類の表現が語彙の中で出現する頻度である（Bybee 2007: 338, 早瀬・堀田 2005: 79）。タイプ頻度と生産性が関連しているとされる理由について、早瀬・堀田（2005）は次のように指摘している。

「生産性とは、ある表現パターンがそれまで用いられたことのない新しい形式に適用される可能性を指す。生産性が高いということは、その表現のパターンが、ある種の「規則」として、数多くの様々な形式に応用される可能性が高いことを表す。ここでの表現パターンは、スキーマと言い換えることができる。タイプ頻度が高いほど、つまり、できるだけ多くの種類の表現が可能であるほど、そのスキーマが十分に定着し、新規例に出会った時にも真っ先に活性化され、利用される可能性が高くなる。つまり、生産性が出てくるのである。」（早瀬・堀田 2005: 103-107，下線は引用者による）

例えば、cooked, moved, played などのように、規則活用接辞を用いた[V-ed]スキーマは、新しい動詞に適用されて過去形を形成することができる（例えば、faxed, e-mailed, xeroxed）。したがって、このスキーマは生産性が高いと言える。一方、catch, buy, bring などの過去形のスキーマである[C-{a /o}-ught / /C-ɔ:t/]は、新しい動詞に拡張適用されることがないため、生産性が低いと言える。つまり、後者の場合、caught, bought, brought などの表現自体の定着度は高いものの、その他の動詞にはほとんど適用されていないため、その上位にあるスキーマそのものの生産性は依然として低いままである。

2.2.3 エントロピー（entropy）

エントロピーとは、情報量の尺度として 1948 年に Claude E. Shannon によって提唱された概念であり、曖昧さや乱雑さの増減を示す指標の一つである。玉岡（2010）は、このエントロピーの概念を言語学の分野に応用し、日本語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の特性について計量的分析を行った。具体的には、エントロピーを表現の多様性を示す指標として用い、複合動詞の前項と後項の動詞のトークン頻度に着目し、その特性を検討するというアプローチを取った。考察の結果、統語的複合動詞は語彙的複合動詞よりもエントロピーが高く、後者に比べて前者の V_2（後項要素）が多様な V_1（前項要素）と結合しており、表現の多様性がより高いことが明らかになったとしている。さらに、趙（2025）は AA 型複合形容詞を対象に、各造語要素のエントロピーが高ければ高いほど、A_1 と A_2 のトークン頻度における偏りが小さくなり、他の形容詞との共起制約が緩やかになる傾向を指摘している。これにより、エントロピーの高い造語要素ほど多様な形容詞と結合しやすく、生産性が高いと考えられる。

3. 本稿の提案

これらの先行研究の問題点を踏まえ、本稿では、コーパス分析システム Sketch Engine を用い、ウェブコーパス（jaTenTen11）からデータを網羅的に収集し、近年生産的に使用されている AA 型複合形容詞を抽出する。また、分類法においても、ぶれの大きい意味的な直感に依存することなく、統一的な基準を設定する。すなわち、用法基盤モデルの考え方に基づき、言語の使用実態に着目し、生産性の度合いに基づいて AA 型複合形容詞の造語パターンの分析を試みることを提案する。

上述したように、趙（2025）は統計的手法を用い、AA 型複合形容詞の生産性の測定基準について考察を行った。生産性の度合いに着目するならば、図 1 と図 2 のように、AA 型複合形容詞の造語パターンはさらに四つのグループに分けることができる。分け方としては、Y 軸のタイプ頻度と X 軸のエントロピーについて、それぞれ最大値と最小値の平均を求め、その値を基準として平行線を引くことで、生産性の度合いに基づいてグループを分類する。以下では、A_1 と A_2 を中心とする造語パターンをそれぞれ見ていく。図 1 のよう

に、以上の方法で A_1 を中心とする造語パターンは太線で第Ⅰグループと第Ⅱグループ、第Ⅲグループ、第Ⅳグループにそれぞれ分けられている。以下ではその分け方を簡単に述べる。まず、タイプ頻度の最大値（「面白い」の 73）と最小値（「浅い」の 5）を取り、中間値の 39 を算出する。そして、エントロピーの場合、最大値（「偉い」の 4.255）と最小値（「浅い」の 0.026）を取り、中間値の 2.1145 を算出する。次に、タイプ頻度の中間値 39 を基準として横の平行線を引き、エントロピーの中間値 2.1145 を基準として縦の平行線を引く。最終的に、Ⅰ～Ⅳという四つのグループに分けられることになる。図表の可読性を高めるために、図 1 と図 2 の縦軸を対数目盛り（基数 80）で設定し、図の下半分を拡大表示した。その結果、設定の都合上、縦軸の数値が表示されなかったため、表 1 及び表 2 にそれぞれの数値を詳細に示した。

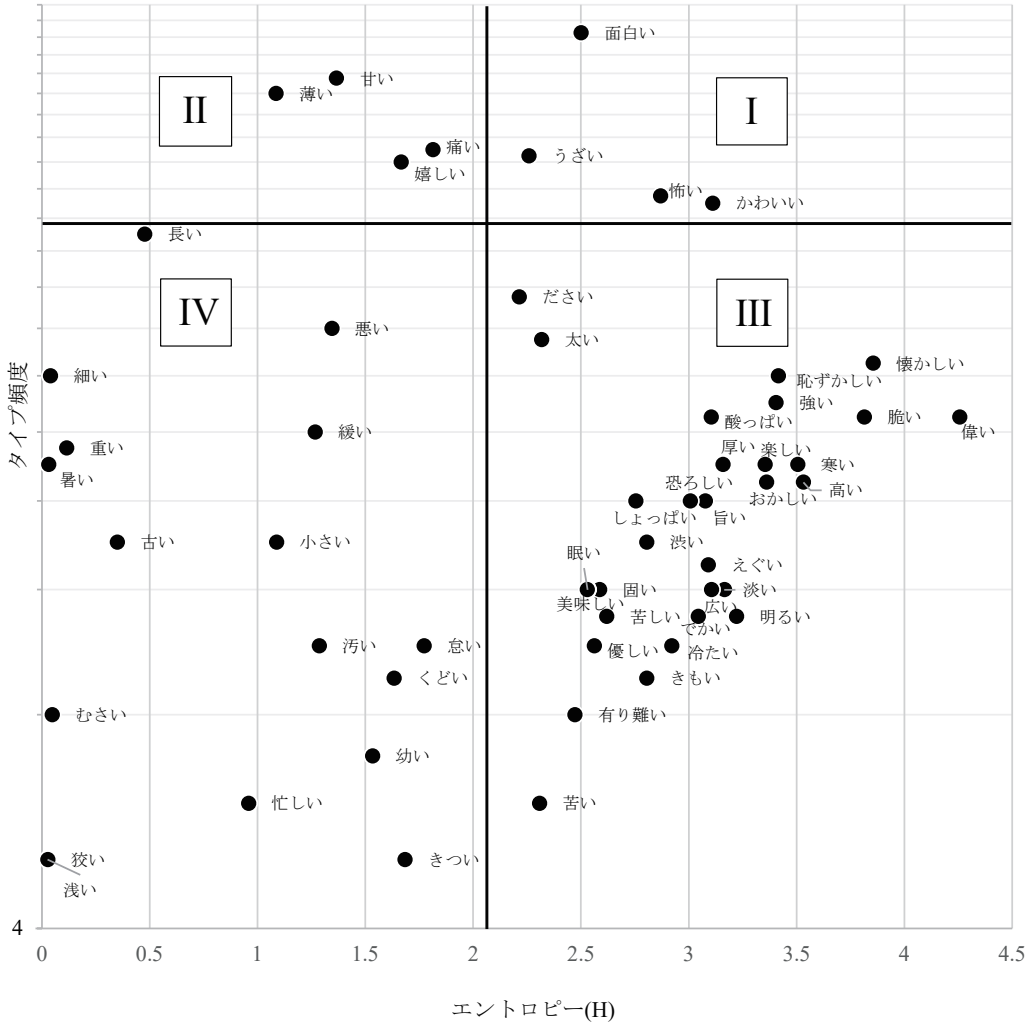

図 1　A_1 の生産性から分類した造語パターン

表 1　A_1のタイプ頻度とエントロピー（合計：56 件）

A_1	タイプ頻度	エントロピー
面白い	73	2.5
甘い	63	1.365
薄い	60	1.085
痛い	50	1.813
うざい	49	2.258
嬉しい	48	1.665
怖い	43	2.868
かわいい	42	3.11
長い	38	0.476
ださい	31	2.212
悪い	28	1.344
太い	27	2.317
懐かしい	25	3.854
恥ずかしい	24	3.414
細い	24	0.038
強い	22	3.404
偉い	21	4.255
脆い	21	3.813
酸っぱい	21	3.103
緩い	20	1.266
重い	19	0.114
寒い	18	3.504
楽しい	18	3.353
厚い	18	3.157
暑い	18	0.031
高い	17	3.531
おかしい	17	3.36
旨い	16	3.076
恐ろしい	16	3.006
しょっぱい	16	2.753
渋い	14	2.804
小さい	14	1.087
古い	14	0.349
えぐい	13	3.09
淡い	12	3.164
広い	12	3.105
固い	12	2.585
眠い	12	2.53
美味しい	12	2.528
明るい	11	3.22
でかい	11	3.043
苦しい	11	2.618
冷たい	10	2.92
優しい	10	2.561
怠い	10	1.772
汚い	10	1.285
きもい	9	2.804
くどい	9	1.632
有り難い	8	2.471
むさい	8	0.047
幼い	7	1.532
苦い	6	2.307
忙しい	6	0.957
きつい	5	1.683
狡い	5	0.027
浅い	5	0.026

一方、A_2を中心とする造語パターンは図2 の通りである。まず、タイプ頻度の最大値（「かわいい」の 96）と最小値（「珍しい」の 5）を取り、中間値の 45.5 を算出する。そして、エントロピーの最大値（「やばい」の 3.921）と最小値（「暗い」の 0.013）の中間値を計算し、1.954 を得る。次に、タイプ頻度の中間値 45.5 を基準として横の平行線を引き、エントロピーの中間値 1.954 を基準として縦の平行線を引く。最終的に、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳという四つのグループに分けられる。ただし、図が示しているように、A_2 は A_1 と異なっており、第Ⅱグループに属する語彙項目が存在しないことが明らかになった。

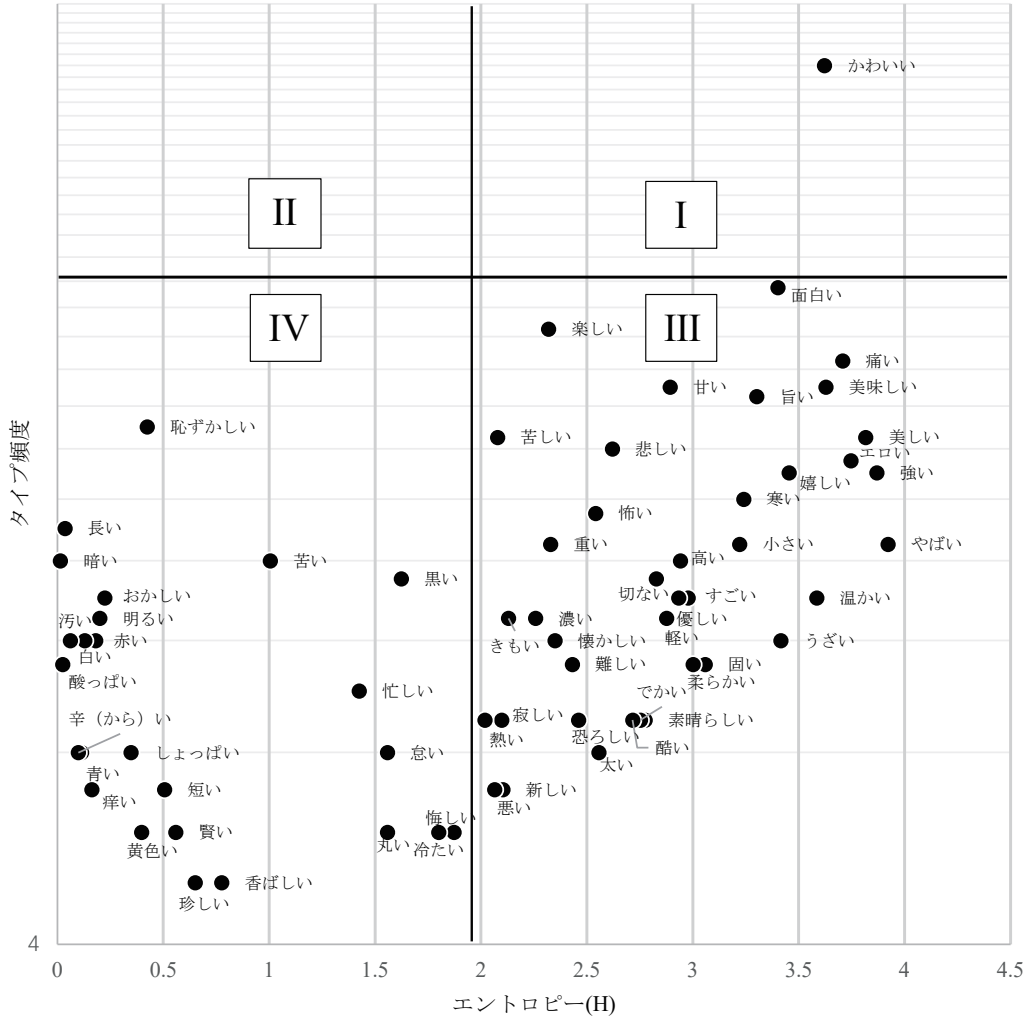

図 2　A_2 の生産性から分類した造語パターン

表 2　A_2 のタイプ頻度とエントロピー（合計：65 件）

A_2	タイプ頻度	エントロピー	苦しい	25	2.077
かわいい	96	3.621	悲しい	24	2.619
面白い	43	3.401	エロい	23	3.745
楽しい	37	2.318	強い	22	3.868
痛い	33	3.706	嬉しい	22	3.454
美味しい	30	3.627	寒い	20	3.239
甘い	30	2.892	怖い	19	2.54
旨い	29	3.301	長い	18	0.035
恥ずかしい	26	0.423	やばい	17	3.921
美しい	25	3.815	小さい	17	3.22

重い	17	2.328	忙しい	10	1.424
高い	16	2.94	素晴らしい	9	2.774
苦い	16	1.004	でかい	9	2.752
暗い	16	0.013	酷い	9	2.715
切ない	15	2.827	恐ろしい	9	2.46
黒い	15	1.622	寂しい	9	2.097
温かい	14	3.584	熱い	9	2.018
すごい	14	2.977	太い	8	2.555
優しい	14	2.932	怠い	8	1.557
おかしい	14	0.223	しょっぱい	8	0.347
軽い	13	2.875	青い	8	0.113
濃い	13	2.257	辛い	8	0.098
きもい	13	2.129	新しい	7	2.102
明るい	13	0.199	悪い	7	2.063
うざい	12	3.414	短い	7	0.505
懐かしい	12	2.348	痒い	7	0.162
赤い	12	0.179	悔しい	6	1.872
白い	12	0.128	冷たい	6	1.799
汚い	12	0.06	丸い	6	1.557
固い	11	3.057	賢い	6	0.558
柔らかい	11	3.001	黄色い	6	0.396
難しい	11	2.43	香ばしい	5	0.775
酸っぱい	11	0.024	珍しい	5	0.65

以上のように、AA 型複合形容詞の造語パターンはそれぞれ A_1 と A_2 を中心とし、生産性の度合いを通して四グループに分けることができる。その中で、A_1 は「Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ」という順序、A_2 は「Ⅰ→Ⅲ→Ⅳ」という順序で生産性が低くなっていくと考えられる。これは、用法基盤モデルにおいて最も重視されるタイプ頻度の方が、エントロピーよりも生産性を決定する上でより重視されるべきであるという前提に基づいている。次節では、各グループの AA 型複合形容詞の造語パターンを詳しく見ていく。

4. 各グループに属する AA 型複合形容詞の造語パターン

以下では、各グループを A_1 と A_2 に分け、その造語パターンの詳細について述べる。

4.1 第Ⅰグループ

このグループに属する A_1 または A_2 は生産性が最も高く、スキーマ化のレベルが高いことが確認された。つまり、2.2.2 節で述べたように、タイプ頻度が高いほど、ある表現パターン（いわゆる、スキーマ）の定着度が向上し、新規例に出会った時にも適用される可能性が高くなるにつれて、生産性が高くなるということである。本稿の研究対象で述べると、例えば、［面白（い）＋X］の場合、「面白おかしい」や「面白かわいい」「面白楽しい」と

いった表現が多く使用されるうちに、「面白い」を前項とし、他の形容詞を後項として結合することで複合形容詞を作るという造語パターンが新たに形成され、［面白（い）＋X］というスキーマの際立ちが高くなると言える。その結果、「面白い」は AA 型複合形容詞の前項要素として生産性が高くなり、「面白美味い」や「面白美しい」「面白懐かしい」といったような様々な新規例がさらに出てくるということになる。なお、上述したように、この造語パターンのグループに属する A_1 は「面白い」「うざい」「怖い」「かわいい」という 4 つの語であるのに対し、A_2 は「かわいい」のみである。以下では、第 I グループに属する AA 型複合形容詞の造語パターンを詳しく見ていく。

4.1.1 ［面白（い）＋X］

この造語パターンはタイプ頻度が最も高く、73 である。その中には「面白おかしい」（1,788）や「面白かわいい」（876）といったトークン頻度の高いものもあり、「面白怪しい」（2）や「面白汚い」（1）といったトークン頻度が極めて低いものも存在する。以下では、いくつかの例を見られたい。

（3）マスコミにいる人間が事実関係を深く調査しようともせず、一部の政府官僚側の意見だけを面白可笑しく取り上げて記事にするなんて何を考えているのかと思うくらいです。（fc2.com）

（4）【Wii・DSi が当たる！】おもしろかわいいナイロン製収納 BOX♪収納 STORAGE_BOX【Z1A】価格：1,200 円レビュー評価：5.0 レビュー数：1（yakiuchi.com）

（5）編集学校って“面白怪しい”ですね。師範のみなさんも守の学衆を経てこられたわけですが、守の稽古で大事にしたいことってなんでしょうね。（isis.ne.jp）

（6）耳から腐ったような液がこぼれるシーンは演出なのかと思ってましたが、撮った時が真夏で着ぐるみの暑さのために溜まった中の人のマジの汗だったという解説が面白汚かった。（sheepdog.jp）

4.1.2 ［うざ（い）＋X］

この造語パターンは［面白（い）＋X］に比べてタイプ頻度が低く、後項要素 X に現れる形容詞のトークン頻度の差もより大きい傾向が見られる。その中で、「かわいい」のトークン頻度が最も高く、790 と際立っているのに対し、「明るい」（2）や「しんどい」（1）のように、トークン頻度が低いものも見られる。具体の使用例は以下の通りである。

（7）田口の金髪が許せない。うざかわいい田口が、うざきもい田口になってしまった・・・。（・・・）田口はすきだけど、金髪田口はすきじゃないです・・・。しょぼん。茶髪の可愛い田口カムバック。（jugem.jp）

（8）朝から文字打つと何故かこのテンションという不思議 ww あれか、現実があれだがら（原文ママ）うざ明るくなるのか！(何今日実は朝から具合がすこぶる悪くてちょっと電車内で本気で吐くと思ったんですわ…ええ冷や汗というものを具体的にはじめてどんなものか知りました。（fc2.com）

（9）単純にうちの部屋は熱がこもりやすく TV・PC・PS2 と熱源が多いためってだけな気がモリモリしますが、ほうっておくとウザしんどいくらいにはなっているのでたまに冷却シートを愛用しております（おでこにペタッと貼るやつですね）。（fc2.com）

4.1.3 ［怖（い）＋X］と［かわい（い）＋X］

この二つの造語パターンは［面白（い）＋X］と［うざ（い）＋X］よりタイプ頻度が下がっているにもかかわらず、後項要素 X に現れる形容詞のトークン頻度の差がそれほど大きくないため、生産性が高い傾向が見られる。［怖（い）＋X］においてトークン頻度が最も高い X は「かわいい」（235）であるが、［かわい（い）＋X］ではトークン頻度が最も高い X は「かわいい」である。その一方で、「怖暗い」（1）や「かわい幼い」（1）といったトークン頻度が極めて低い複合形容詞も確認された。具体例は以下の通りである。

（10）独特のセンスで定評を集めるカナバングラフィックス制作を担当した良質のシチュエーションコメディ。コワかわいいボリスとコプチェフがぬいぐるみになりました！限定発売なので欲しい方はお早めに!!（pepu72u.com）

（11）怖暗かったのもあるかもだけど、信号渡ってた時、後ろから「ゆ---」ゆ-た、呼ばれた気がして振り返ったら、ゆ-たの兄貴そっくりな人がチャリで来て、(…)。(fc2.com)

（12）既に御存じとは思いますが、荒筋を申上げますと、赤い頭巾をかぶっているので赤頭巾と呼ばれていたかわい可愛い少女が、いつものように森のお婆さんを訪ねて行くと、狼がお婆さんに化けていて、赤頭巾をムシャムシャ食べてしまった、(…)。（ipad-kindle-nook.com）

（13）最新品種さくらこ、シルバーリーフとピンクの小花がかわい幼い葉は特に柔らかい毛に覆われて、触ると我が家のハムスターを撫でてるような感触。（ocn.ne.jp）

4.1.4 ［X＋かわいい］

A_1 と異なり、A_2 において最も生産性が高いのは［X＋かわいい］という造語パターンのみである。しかしながら、この造語パターンはタイプ頻度が極めて高く、しかも前項要素 X に現れる形容詞のトークン頻度の差も相対的に小さい。そして、他の造語パターンと同様に、［X＋かわいい］というパターンも、「面白かわいい」（876）や「ゆるかわいい」（310）といったトークン頻度が高い複合形容詞が造語される一方、「汚かわいい」（4）や「しょっぱかわいい」（2）といった低頻度の例も確認できる。以下では、「ゆるかわいい」「汚かわいい」「しょっぱかわいい」の使用例を見られたい。

（14）ボートネックは鎖骨に沿って横に広く開いてデコルテを美しく見せます。襟ぐりが広めなのでオフショルも楽しめて、ゆる可愛さ UP!（musicbros.net）
（15）そんで、ダイスケって、その頃はまだ、サシ毛が多くって、黒の中にところどころ灰色が混じってるのが、まるで、ゴミでもついてるみたいで、妙に汚可愛くって、そこんとこも、絵本のけばだった感じの痩せ猫にそっくりだったの。（kumikura.jp）
（16）好きです。すばらしく好きです。まずは、顔が好き。しょっぱかわいいあの顔が大好き！ふにゃんとしたたれ目の笑顔が特に好きです。（jugem.jp）

4.2 第Ⅱグループ（A_1 のみ）

このグループは特徴的であり、A_2 ではそれに属する複合形容詞の造語パターンが一つも存在しないのに対し、A_1 では［甘（い）＋X］［薄（い）＋X］［痛（い）＋X］［嬉し（い）＋X］という 4 つの造語パターンが確認された。ただし、これらの造語パターンは第 I グループに属するものと比較してタイプ頻度に大きな差は見られないものの、エントロピーは相対的に低い傾向を示している。つまり、このグループの各造語パターンにおける A_1 と A_2 はトークン頻度の偏りがかなり大きいということになる。そのため、それに属する造語パターンの生産性は必ずしも低いとは言えないものの、第 I グループのものと比較すると低い傾向が見られる。例えば、［甘（い）＋X］の場合、「甘酸っぱい」のトークン頻度は 20,000 以上（26,289）となり最も高く、次いで「甘辛い」が 8,673 であり、いずれも極めて高い値を示している。しかし、「甘ちょろい」になると、トークン頻度は 2,486 に下がっており、「甘苦い」以降になると急激に減少していることが確認された。そのことから、「甘酸っぱい」や「甘辛い」といったタイプ頻度が圧倒的に高い AA 型複合形容詞は多く使用されるにつれて、定着度が非常に高いレベルに達しており、語幹である「甘い」と他の形容詞との結合によって造語される複合形容詞より、一つの言葉として認識されるようになっていると言える。言い換えると、このグループに属する AA 型複合形容詞は、第 I グループのようにスキーマから造語されるのではなく、語彙化のレベルが非常に高いという特徴があると考えられる。したがって、このグループに属する造語要素となる形容詞は「面白い」や「かわいい」といった第 I グループに属する形容詞より、生産性が低いと考えられる。以下では、第Ⅱグループに属する各造語パターン及びそれぞれの使用例を見ていく。

4.2.1 ［甘（い）＋X］と［薄（い）＋X］

［甘（い）＋X］と［薄（い）＋X］は、このグループにおいていずれもタイプ頻度が高く（前者が 63、後者が 60）、特に第 1 位の複合形容詞のトークン頻度が他の複合形容詞に比べて圧倒的に高い。具体的には、［薄（い）＋X］において、「薄暗い」のトークン頻度は 48,244 であり極めて高いのに対し、第 2 位の「薄汚い」のトークン頻度（6,964）はその約

70%に減少していることになり、この両者の差が非常に大きいと言える。以下では、語彙化している複合形容詞である「甘酸っぱい」と「薄暗い」の使用例を見られたい。

（17）東北地方の貧しい田舎料理が発祥ですが、特に女性が好きで何種類もの野菜が入ります。甘すっぱく味付けして、ベースはパパイヤのまだ未熟な青い硬いものを千切りで混ぜ合わせます。（exblog.jp）

（18） どうやら自分は薄暗い、割と狭い部屋の中に寝ているようだ。（nomaki.jp）

4.2.2 ［痛（い）＋X］と［嬉し（い）＋X］

［甘（い）＋X］と［薄（い）＋X］と比べ、［痛（い）＋X］と［嬉し（い）＋X］はタイプ頻度が相対的に低いが、エントロピーが高くなることから、後項要素 X に現れる形容詞のトークン頻度の偏りが小さいことが明らかである。以下では、この二つの造語パターンにおける語彙化している AA 型複合形容詞の例として、「痛痒い」と「嬉し恥ずかしい」を見られたい。

（19）熱も昨日は 37 度 8 分だったし…。鼻の下はガビガビで痛かゆそう。（atsuron.net）

（20）「私の言葉で夢を持ってくれただなんて、ちょっと嬉し恥ずかしいかなぁ……」元々細い目をさらに細めた池上は、なんとも照れくさそうに自分の頭を掻いている。（fc2.com）

4.3 第Ⅲグループ

図 3 と図 4 が示すように、A_1 と A_2 のいずれにおいても、第Ⅲグループに多くの複合形容詞の造語パターンが集まっている。タイプ頻度が低い一方で、エントロピーが高いというのは、このグループの特徴である。すなわち、このグループに属する A_1 ないしは A_2 は、スキーマとなる具体事例が少ない一方で、X に現れる形容詞のトークン頻度の偏りは小さく、語彙化している AA 複合形容詞がほとんど存在しないと言える。それにもかかわらず、用法基盤モデルの観点からは、タイプ頻度が低いため、このグループに属する形容詞は第Ⅱグループよりも生産性が低いと結論づけられる。例えば、［懐かし（い）＋X］はタイプ頻度が 25 とかなり低いものの、それによって造語される複合形容詞はいずれもトークン頻度が低い（第 1 位の「懐かし懐かしい」でも 20 である）ため、後項要素 X に現れる形容詞のトークン頻度の偏りがほとんどないことが裏付けられる。紙幅の都合上、以下では代表的な 4 つの造語パターンの使用例のみ示す。

4.3.1 ［懐かし（い）＋X］と［明る（い）＋X］

（21）最近、土岐麻子のアルバムを買いました。なんか懐かし新しいって感じの曲で、声も大好き。（jugem.jp）

（22）私も、思いがけず当時の仕事モノが話題に上がったので、思わず告白してしまいました。懐かし苦しい思い出だったり、遊んだ思い出をお持ちの方のお話、感慨深いです。（teacup.com）

（23）長く続いてるカップルは超クール毒舌男と明るかわいい女↓隣なのに話さないけど毎晩メールしてるってなにかしら毎日コミニュケートしとけばいいよ。
（yarareyaku.net）

（24）哀愁系の曲も数曲はありますが明る切ない系が多い上にスローよりアップテンポが多いので、センチメンタルやダークサイド好きな耳よりも明るさわやか好きな耳をお持ちの方におすすめです。（digi2.jp）

4.3.2 ［X＋やばい］と［X＋温かい］

（25）あーーーワンマン観たいーワンマンーワンマンー（うざやばいすね。一昨日のインでまたスイッチ入っちゃいましたよｗｗ。（fc2.com）

（26）一生結婚もしないで、白髪交じりにジャニに夢中とか痛ヤバイ人生になりそうｗ…。
（55disney.com）

（27）で、添えてあるバニラアイスと一緒に食べると・・・冷た温かい感じが絶妙です。何にしても、焼き林檎が旨い。（dreamlog.jp）

（28）サイドディッシュも、まずいとわかってるにんじんの甘あったかいのも他にも何も付いていないので（ほっとくと肉しか出てきません）（fc2.com）

4.4 第Ⅳグループ

図 3 と図 4 が示すように、このグループに属する造語パターンは、タイプ頻度とエントロピーがいずれも低いレベルにある。すなわち、スキーマの定着度が低いことに加え、X に現れる形容詞のトークン頻度の偏りが大きいため、生産性が最も低い造語パターンのグループであると言える。例えば、［X＋苦い］はタイプ頻度が 16 とかなり低く、しかも前項要素 X に現れる形容詞のトークン頻度の偏りが非常に大きい。具体的には、第 1 位の「甘（い）」はトークン頻度が 451 であるのに対し、第 2 位の「酸っぱ（い）」からトークン頻度が急激に減少しており、25 以下になっている。このことから、「甘苦い」は極めて高い語彙化のレベルに達しており、既に定着した複合形容詞であると言える。また、それ以外にも、「細長い」（トークン頻度が 32,753 の［細（い）＋X］におけるトークン頻度は 32,660）や「ゆるかわいい」（トークン頻度が 371 の［ゆる（い）＋X］におけるトークン頻度は 310）「面白おかしい」（トークン頻度が 1,829 の［X＋おかしい］におけるトークン頻度は 1,788）といった語彙化している AA 型複合形容詞はこのグループに属している。紙幅の関係により、第Ⅳグループを A_1 と A_2 に分けた詳細な説明は割愛する。その代わりに、以下では、第Ⅳグループに属する「甘苦い」「細長い」「ゆるかわいい」「暑苦しい」（トークン頻度が 17,476 の［暑（い）＋X］におけるトークン頻度は 17,436）の使用例を示したい（下線部はいずれも形式的にこのグループに属する造語パターンの中心となる形容詞である）。なお、「面白おかしい」は 4.2.1.1 節で示しているため、ここでは再度示さない。

（29）初めはおいしいけど、何度か口に運ぶと独特の苦味があり、佃煮の味付けも甘いことから甘苦く、ご飯に合いにくい味です。酒にはすごくあいそう。（iidashippe.com）
（30）食べ終わると細長く薄い板の先にガーゼがついた「せつ」というもので、おわんに付いた食べかすをこすり取って食べなくてはいけない。（ezvoice.org）
（31）ゆる過ぎないユル可愛いシルエットで楽に着られます！見た目の可愛さに一目ボレです！（andit-web.jp）
（32）俺の安らかな眠りを返せ〜〜！！って、僕自身が暑苦しいですね、これじゃ・・・。再び、ありがとうございます！（webry.info）

5. まとめと今後の課題

本稿では、用法基盤モデルの観点に基づき、AA 型複合形容詞の造語パターンについて、言葉の使用実態に着目し、生産性の度合いから分析を試みた。趙（2025）が提案した複合形容詞の生産性測定法に基づき、造語要素となる形容詞の生産性を分類基準とし、AA 型複合形容詞の造語パターンを 4 つのグループに分けて分析した。具体的には、第Ⅰグループに属する A_1（「面白い」「うざい」「怖い」「かわいい」）及び A_2（「かわいい」）は、タイプ頻度及びエントロピーがいずれも高いため、造語パターンの生産性が最も高い。これに対し、第Ⅱグループに属する形容詞はタイプ頻度が高いものの、エントロピーが低く、「甘酸っぱい」や「薄暗い」といった高い語彙化レベルの複合形容詞が含まれる。また、A_2 となる形容詞が存在しないことも本グループの顕著な特徴であると言える。こうした高い語彙化レベルの複合形容詞の存在は、本グループに属する造語パターンの生産性が第Ⅰグループより低い要因であると考えられる。一方、残る第Ⅲグループと第Ⅳグループに属する造語パターンは、第Ⅰ・第Ⅱグループに比べて生産性が低いレベルにある。その中で、第Ⅲグループに属する造語パターンはタイプ頻度が低いものの、X に現れる形容詞のトークン頻度の偏りが小さいため、第Ⅳグループより生産性が相対的に高いと言える。

しかし、本稿はあくまでも AA 型複合形容詞の造語パターンに関する一考察に留まる。今後の課題として、本稿の分析結果に基づき、複合形容詞の通時的な言語変化に関するさらなる考察が必要となる。すなわち、ある造語要素がどのようなプロセスを経て生産性が高くなるのか、ということについて検討する。また、紙幅の都合上、AA 型複合形容詞の使用例のみ示したが、本分析結果を基盤とし、今後は意味構成や使用場面といった観点から、フレーム意味論や語用論などの枠組みで詳細に考察したい。

参考文献

Baayen, R. Harald (2009) Corpus linguistic in morphology: Morphological productivity. In A. Lüdeling, & M. Kytö (eds.), *Corpus Linguistics: An International Handbook, Vol.2*, Mouton de Gruyter, 899-919.

Bybee, Joan (2007) *Frequency of use and the organization of language*. Oxford: Oxford University Press.

Bybee, Joan (2010) *Language, Usage and Cognition*. Cambridge: Cambridge University Press.

Bybee, Joan (2023) What Is Usage-Based Linguistics? In M. Díaz-Campos & S. Balasch (eds.), *The Handbook of Usage-Based Linguistics*, Wiley Blackwell, 9-30.

Langacker, Ronald W. (2000) A Dynamic Usage-Based Model. In M. Barlow & S. Kemmer (eds.), *Usage-Based Models of Language*, Stanford: CSLI Publications, 1-63.

漆谷広樹（2014）「複合形容詞の研究：形容詞＋形容詞の構成による場合」『日本語史の新視点と現代日本語』, 488-508, 勉誠出版.

黄勇・濱田亮輔（2023）「日本語の[A+A]型複合形容詞の意味構造と成立条件:『分類語彙表』のコード化された意味概念基づいて」『ことば』44(0), 109-124.

近藤研至（2015）「形容詞＋形容詞タイプの複合形容詞について」『文教大学国文』44, 20-35.

阪口慧（2018）「[形容詞語幹＋形容詞]型複合形容詞の意味：フレーム意味論・構文彙に基づいた複合形容詞の意味記述」『認知言語学論考』14, 41-81, ひつじ書房.

玉岡賀津雄（2010）「第 9 章　コーパス分析の研究例 2: 複合動詞の計量的解析」中本敬子・李在鎬（編）『認知言語学研究の方法―内省・コーパス・実験』181-195, ひつじ書房.

趙萱（2025）「日本語における[形容詞語幹＋形容詞]型複合形容詞の生産性について」計量国語学会第 69 回大会発表予稿集，2025 年 9 月，17-24.

辻幸夫［編］（2013）『新編認知言語学キーワード事典』研究社.

早瀬尚子・堀田優子（2005）『認知文法の新展開：カテゴリー化と用法基盤モデル』研究社.

ツール

Sketch Engine　https://app.sketchengine.eu/　2025 年 8 月参照.

付記

本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2138 の支援を受けたものである。

---

[i] 本稿において、例文中の下線はすべて筆者が付したものである。

[ii] 本稿における生産性は、主に Baayen(2009)が提案した実現生産性（Realized productivity）を指す。すなわち、これは「すでに使用された表現の種類の豊富さを示す生産性」である。

[iii]「テキスト頻度」とも呼ばれ、ある表現が実際の言語使用において出現した回数を数えることで得られる頻度である。例えば、あるテキストにおいて「面白い」という語が 1000 回出現した場合、そのトークン頻度は 1000 である。詳細は Bybee (2007), Bybee (2010), Bybee (2023), 早瀬・堀田（2005: 78-102）を参照されたい。